

5 委員の追加意見・要望等

1. 入試志願者の確保方策について

非常に難しい問題。ご説明にあったような高専を理解してもらう活動を続ける事が重要だと思います。中学3年生の時点で最終の進路まではっきり決めるのは難しいと思います。親としても同様でしょう。高専には卒業後にもいろいろな選択肢がある事を強調すべきではないでしょうか。(庭野委員)

良いイメージでの認知度を高める。校名を知らない人はいませんが、常に注意を引きつけ、思いおこさせ、興味を持ってもらう事が必要。それにはTV、新聞等メディアの利用が効果大。ニュース提供の努力は必要だが、手軽に身近な出来事も常に発信していけばよい。本人及び身内、地域の人々、全てひっくるめて「行きたい学校」のイメージを焼き付ける。

メディア（地方紙、ローカルTV，Radio局、CATV）を活用する。

ニュース性のあるものをどんどんアピールする。

ニュース性のあるものを意図的に手がける。

小・中学生、親などに憧れとして植えつけてゆく努力。(平田委員)

入学志願者の確保方策については、まず子供たちの理系離れをくい止めることが重要と思われることから、地元の小・中学校と連携し、新居浜高専の先生や学生が積極的に小・中学校へ出向き、子供たちが面白いと思うような実験を授業の中で数多く体験させることで、理系科目に興味を持つ小・中学生を掘り起こすことができるのではないかと。(鈴木委員)

学校訪問の説明だけでは、高専の特色が十分に伝わらない面がある。できれば中学校主催の進路説明会に参加できるよう、中学校側に積極的にPRをする必要がある。(田中委員)

2. 地域との連携による教育活動の促進について

地域貢献はこれから重要な活動になってくると思います。申し訳ありませんが、高専として具体的に何が出来るかという点につきましてはアイデアがうかびません。少人数のブレインストーミングで議論されてみてはと思います。また学生の中から出てきた自主的な活動があれば、学校としてできるだけサポートする体制を考えてはいかがでしょうか。(庭野委員)

文セン等をかりて、高専主催にふさわしい講演会を開催。

田中フェロー、ホリエモン等、客を呼びやすい講師

学外の施設で行い、一般の人を歓迎

学生が主体、教職員や愛テクフォーラムメンバーが支援

先生方の負荷を軽くするメリットも考え、学生の活用をもっと考える。

自主、フロンティアの精神を持った学生づくり

社会人講師をもっと多用する。

愛テクフォーラムの延長、学生との関わり合いを増やす。

(平田委員)

3. その他

いろいろなところで進められている立案企画能力、プレゼンテーション能力を向上するための教育は、学生が社会に出て技術者として活動するために重要な項目と思います。これからも教育に工夫され、より高いレベルを目指していただきたいと思います。

(庭野委員)

人間力を強力に育てる、倫理、道徳的な教育。

立派な日本人というか、正しい日本人というか、それを正しく真剣に考えている学校がまだみえない。逆に先導者になるチャンスである。人気が高まり入学者は溢れる。親孝行、礼儀、挨拶、e. t. c、きりっとした姿勢・・・かっこよいという風土。どなたでも「新居浜市倫理法人会」をのぞいてみてほしい。宗教等とは無縁ですのでご心配なく。

地元の倫理法人会に教職員の方が入会して、基本を学ぶ。(企業の社長達と共に)

知識や技術にウエイトが偏り、心や倫理、道徳、感性といった無形のものがおきざりにされてきた。少しテコ入れを図るだけで全体が容易に変わるものである。

(平田委員)

